

柔軟な思考

東部中学校3年 小久保湧斗さん

男と女。母のお腹の中にいる時から、すでに決められている。産まれてくる子の性別をきいただけで、男の子にはかっこいい名前、女の子にはかわいい名前。男の子には青色、女の子にはピンク色。まだ、全く何も認識できないのに決められてしまう。

小学生になると、ランドセルを買う。昔は、赤と黒しかなかったらしいが、今は色の種類が豊富である。そう、男は黒、女は赤なんて決めつけはよくないのだ。

成長していくと自分でなんでも決められるようになる。でもその反面、親の考えを押し付けられることもある。男だからこうあるべきだ、女だからこうあるべきだ。それは誰が考えたことなのか？

得意な人が得意なことをすればいいし、不得意なら不得意といえるようになればいい。今の僕たちは柔軟に考えられる。男だからやらなければいけない、女だからやらなくてはいけない、なんてないのだ。だけど、まだまだ柔軟に考えられない世代が多い。自分たちがそういうふうになってきたからだと思う。頭にインプットされているので、180度思考を変えるのは難しい。すべてを受け入れると、自分たちが否定されているかのように思うからではないだろうか。社会の中でも男女の壁がまだまだある。だけど、きっと受け入れられる時代がくる。僕たちがこれから柔軟な考え方を当たり前にする。男女の隔たりない自分らしく生きる社会に。